

# トホクのパセリ栽培方法

発芽適温：20～25℃ 生育適温：15～20℃  
 土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；1～2年あける

## 1. 作物特性

パセリはニンジンなどと同じセリ科の野菜で、カールのある品種と、平たい葉のイタリアンパセリがあります。栽培が比較的容易ですから植えておくと大変便利な品目で、春まきの場合うまく管理すると初夏から秋まで長く楽しめます。また秋まきの場合は春先からトウが立つ初夏まで収穫できます。乾燥と土のはね返りを防ぐためにマルチを使った栽培がおすすめです。

## 2. 畑の準備

ニンジンなどセリ科の野菜との連作は避けます。水はけが良く陽当たりの良い畑を選び、夏場に乾燥させると葉が硬くなるのでマルチを使った栽培がおすすめです。



## 3. タネまき

畑に直接まいても良いですが、発芽がデリケートなので、ポットで育苗して植えつけると生育が安定します。畑に直接まくときは条間 30cm ですじまきして、生育に応じて間引きます。ポットで育苗する場合、直径 9cm 位のポットに市販の育苗培土をつめ、深さ 5mm 位に数粒ずつタネをまきます。パセリは好光性種子なので土かけは極めて薄くし、園芸用の小粒のパーミキュライトを利用すると便利です。



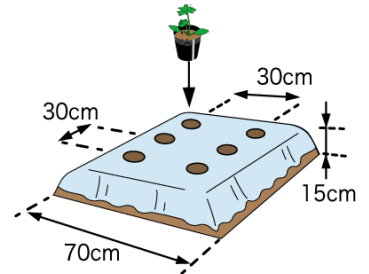
気温が高いと発芽しにくいので、タネまきから数日は軒下などの涼しい場所で管理し、芽が出れば日当たりの良い場所で育て、軟弱徒長させないために夕方にはポットの土の表面が乾く程度に水をやります。

連結ポットやセルトレーなどで育苗した場合は肥料切れに注意し、水やりの際にうすい液体肥料を数回施します。



## 4. 植えつけ

本葉が出たら生育の良い株を残して間引きをし、本葉 5～6枚になったら植えつけます。マルチを使うと雑草防除や土のはね返りを防げて便利です。生育初期が低温の春まき栽培では地温を上げるために透明マルチや黒マルチを、反対に秋播き栽培では地温を下げる白黒ダブルマルチやシルバーマルチを用います



## 5. 栽培管理・収穫

パセリは比較的病気や害虫の少ない野菜ですが、キアゲハがつくと葉を食われてしまいます。見つけたらつまんで駆除します。また株の状態をみて肥料が切れているようなら株元に化成肥料を少量ずつ追肥し、軽く耕します。夏場、畑が乾燥すると葉が硬くなりますから、追肥の時には必ず水やりします。

パセリは草丈 25cm 程度で葉が 12 枚以上になったら外側にもの中から順次茎元からハサミなどで切って収穫します。



イタリアンパセリも同様に栽培します。1 回の収穫量は 1 株から数本とし、常に 10 本以上の葉が残るようにします。水を切らすと葉が硬くなりますので注意しましょう。



地域/月	まく時期												収かく期											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地																								
中間地																								
暖地																								



地域/月	まく時期												収かく期											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地																								
中間地																								
暖地																								